

フラワーレメディィーとの出会い

私がかれこれ十年近くある特殊なストレスとその症状に悩まされてきました。それは今でこそ西洋医学でも大いに認知され患者も多いため製薬会社も新薬に力を注いでいる「過敏性大腸炎」に分類されるものです。分類されるというのは症状が類似しているということで他にカルテに書きようがないからだと思います。実は「外出」という言葉が第一スイッチになりこれがストレスを発生させて途端に大腸が動き出すようなのです。その後、電車やバスに乗ると第2のスイッチが入りトイレに行きたくなって何度となく下車してしまう症状です。大腸に器質的所見がないことは内視鏡で確認しておりますので、正に悩ましいことなのです。普通の人とは皆同じだとおもいますが、医者に行く以外にないと思ってしまう、内科、消化器科、心療内科、精神科と渡り歩くことになりがちです。

ところが、世の中には西洋医学の恩恵のみに執着しない各種補完手段があるのにこれに気付かない、または知らない人が多いのです。これについては西洋医学信奉（極めて日常的なので）が分かり易い解釈ですが、その他の手段との出会いが少ないこともあります。私は、幸運にもフラワーレメディィーとの出会いがあり、これをはじめた一週間後から通勤時間の45分間、一度もトイレ下車がなくなるという夢のような体験をして、それが継続するようになりました。その後適切なカウンセリングとヒーリングタッチを繰り返すことにより、随時心理状態に合わせたフラワーレメディィーを組み合わせることでより安定した状況を手に入れて行ったのです。

私は専門家ではありませんが、西洋医学では「腸は心の鏡」と認識しつつ、また「脳（心）腸相関」と論文には書けるようですが肝心の「心」のヒーリングは論文になっていないで、症状に対する薬の処方箋の書き方を教えているようです。したがって、心の状態を全体的に看る過程が手薄になっていることは否めません。私の場合これに結果を出したのがカウンセリングとフラワーレメディィーであることは間違いありません。

人間の「心」は色々な環境によってどんどん変化して行きますし、変化するものだと思います。自分でコントロールできる方もいるでしょうし、それができる人には症状は出ません。出来ない人のためにフラワーレメディィーがあります。今後も状況に合わせて利用して対処して行きたいと思っています。

以上